

先年滿洲國に於ける土木行政機構改正が論議せられたとき、筆者らは現在の國道局、國都建設局、民政部土木司、交通部等に分掌せられる公共事業の行政と現業とを綜合統轄する工政部の設置を進言力説し、單なる現業官廳に過ぎない國道局の擴充を以て満足せんとする次善案には反對したのであるが、その理由は全く如上の論據による。

現内閣の手で行政機構の根本的改正が漸行せられるのを期待するのは極めて困難であるかに察せられる。軍部の主張する交通省、保健省、航空省の如きさへその實現は頗る疑はしい。まして土木省の獨立の如きは甚だ心細い。

但し土木省が實現する時機如何に拘らず、その實質は飽くまでも行政官廳たる公共事業省であつて、現業官廳たる土木工事省でないと言ふ理想の下にその研究が進められん事を筆者は切望して已まない。

## 一 つ の 希 望

會員 平 山 復 二 郎

此の度「會員の頁」と云ふ欄を、會誌内に設けられて、廣く會員から、自由な意見、感想、希望等を求められるさうですが、誠に結構な企だと存じます。

最近の會誌を見ますと、會員數も愈々六千名を突破しましたが、學會發展の一證左として、誠に喜しい次第です。この趨勢につれまして、近年會務の内容も著しく刷新せられ、誠に會員數にふさはしい活氣を呈して來ました。が、之れ又實に慶賀の至りです。こんな次第で、御禮こそ申せ、不平を申し上げられる筋ではありませんが、茲に望蜀の嫌をもかまはず、更に慾を申し上げますならば、それは會務上、今少しく地方在住會員のことを考慮して戴きたいと云ふことです。尙之を卒直に申せば、學會の會員として受ける利益に、地方在住會員も、東京地方在住會員等と同じ様に、成る可く多く浴することが出来る様にして貰ひたいと云ふ希望です。

此の希望を滿たす根本方策は、結局各地方に支部を設けることだと思ひますが、之はさう簡単に實現出来ることでもありませんから、そこ迄徹底しなくとも、まだ色々方法があるのではないでせうか。勿論、東京地方在住會員や支部のある大阪地方在住會員等と同じ程度にゆかないのは、當然であります。さりとして今日迄の様に、地方在住會員と學會との交渉接觸が、殆ど出版物を通じてだけに留まつて居るのは、どうも少し不親切過ぎはしないかと思ひます。現在六千名の會員中、どの位の割合が地方在住だか知りませんが、相當多い數ではないでせうか、さうなると一層此の感じが強くなります。

之に就ては、現役員の方々も、色々心配して居らるゝことを承知して居りますが、此度の「會員の頁」を會誌内に作られたのも、一部は此の趣旨からなされたことと存じます。尙承る處によると、來年位から、土木部のある工科大学、高等工業学校等の所在地に於て、土木工学会や、講演會、講習會等を年々開催しやうと云ふ計畫も、おありになるとのことです。前申した希望から云つて大賛成であります。財政必ずしも豊かでない學會の現状からは、かう云ふ計畫を大規模に度々實施されることには、色々困難もあることと存じますが、どうか地方在住會員の爲に、斯かる計畫を御發御實行の程を切に希望致します。

學術以外の自由な論議が會誌に載つたことは、初期の時代にあつたと思つてますが、どうか本欄が將來大に賑ふことを切に祈ります。